

国営飛鳥歴史公園 整備・管理運営プログラム

今後取り組んでいく平成32年度までの整備及び管理運営方針

はじめに	1
本公園のストック効果	3
基本方針	5
整備の重点方針	6
管理運営の重点方針	7
公園事業の効果	9

平成29年 3月

国土交通省 近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所

“日本人の心のふるさと”を目指して

国営飛鳥歴史公園は、我が国古代の政治と文化の中心地として栄えた飛鳥地方において、その豊かな自然と文化的遺産の保護、活用を図る一環として、「日本人のこころのふるさと」をテーマに、国土交通省によって整備された公園です。

本公園では、より多くの方が飛鳥を訪れ、その豊かな自然と深い歴史を感じ取っていただけるよう、周辺の史跡や田園景観と調和した整備を行っています。現在は5つの地区で構成され、年間80万人以上の方に来園いただいています。

この整備プログラムは、社会資本整備重点計画の計画期間にあわせ、今後国営飛鳥歴史公園が取り組んでいく平成32年度までの整備及び管理運営に関する重点項目等を策定し公表するものです。なお、本プログラムは今後の社会情勢を踏まえ、必要に応じ見直していきます。

■ 広域位置図



■ 位置

奈良県高市郡明日香村

■ 開園面積

祝戸地区	7.4ha
石舞台地区	4.5ha
甘樫丘地区	25.1ha
高松塚周辺地区	9.1ha
キトラ古墳周辺地区	13.8ha
開園面積合計	59.9ha



飛鳥観光の代表的な場所でもある石舞台地区



稲刈の棚田を望む祝戸地区



展望台から飛鳥地方を一望できる甘樫丘地区

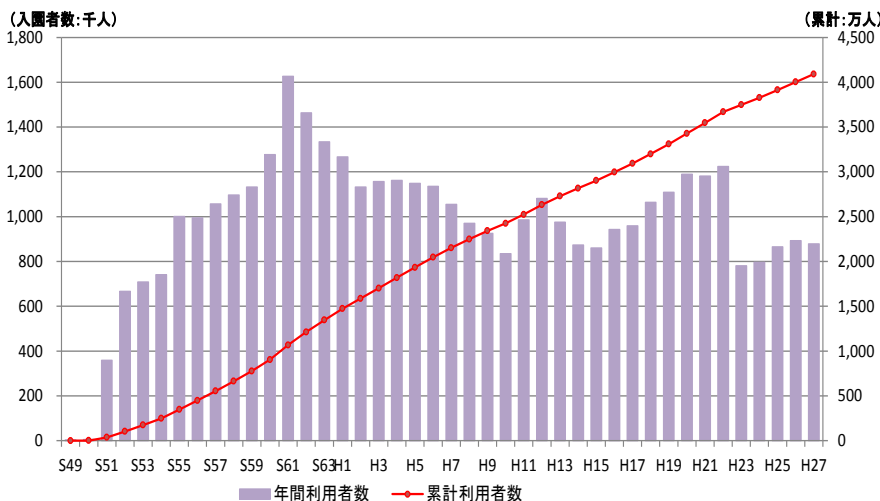


高松塚古墳を有する高松塚周辺地区



飛鳥の新しい観光拠点となったキトラ古墳周辺地区

■ 入園者数の推移



■ 供用の経緯

昭和45年	祝戸・石舞台・甘樫丘地区の3地区を国営公園として閣議決定 翌年より整備着手
昭和49年	祝戸地区開園
昭和51年	石舞台地区開園 高松塚周辺地区を国営公園として閣議決定
昭和55年	甘樫丘地区開園
昭和60年	高松塚周辺地区開園
平成6年	全面概成開園式典
平成13年	キトラ古墳周辺地区を国営公園として閣議決定
平成28年	キトラ古墳周辺地区開園

● 日本の“古都”飛鳥と国営飛鳥歴史公園

明日香村は村内全域が古都法*による歴史的風土保存地区、風致地区などに指定された“日本の古都”です。

数多くの宮跡・寺社跡・古墳などの遺跡を有し、暮らしの営みの中で受け継がれている飛鳥の風景は、訪れる人に感動を与えます。平成 19 年には「飛鳥・藤原の宮都と関連資産群」が世界遺産の暫定リストに登録、平成 22 年には「奥飛鳥の文化的景観」が国の重要文化的景観に選定されるなど、近年“古都”飛鳥の価値はますます高まっています。

国営飛鳥歴史公園は、飛鳥の豊かな自然と文化的遺産の保護、活用を図る一環として、国土交通省によって整備されている公園です。開園以来、飛鳥の風土や景観と調和した整備を図るとともに、地域の方々や飛鳥ファンとともに魅力ある公園づくりに取り組んでいます。

*古都法：正式名称は、『古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法』といい、奈良や京都、鎌倉など日本を代表する古都の歴史的・文化的遺産と、それらと一体となった自然的環境のすべてを「歴史的風土」と捉え、その風土・環境を開発の波から守ることを目的として、昭和 41 年に公布・施行された法律です。



訪れる人に「公園」と「飛鳥」を一体に感じていただけるよう、本来の地形を活かしながら、フェンスや柵、大きな看板などは設けず、自然素材を用いるなど周辺の景観に溶け込むよう配慮しています。



地域の方々との協働による森づくり活動を母体に誕生した公園ボランティア「飛鳥里山クラブ」。現在は約 300 名が参加し、飛鳥の歴史的風土を楽しく学び、守り、育むための活動に携わっています。

● 各地区の概要

国営飛鳥歴史公園は、奈良県高市郡明日香村に位置しており、祝戸地区、石舞台地区、甘樫丘地区、高松塚周辺地区、キトラ古墳周辺地区の 5 地区からなります。

いずれの地区もそれぞれの地形や眺望、植生、立地条件、隣接する古墳や遺跡などの資源を活かしながら、周辺の風土・景観と調和するように整備を図っています。また、明日香村内の史跡や拠点施設を巡る「周遊歩道」と一体的に利用され、飛鳥周遊のネットワークを形成しています。



祝戸地区

美しい棚田の風景が楽しめる、奥飛鳥への玄関口となる地区。地区内には、休憩や集会などにも利用できる宿泊研修施設「祝戸荘」があります。

石舞台地区

憩いと賑わいの拠点となる地区。蘇我馬子の墓と伝えられる石舞台古墳を中心に、棚田の地形を活かした芝生広場が広がります。

甘樫丘地区

国営飛鳥歴史公園の北のエンタランスとなる地区。大和三山を望む展望の地であり、「万葉植物園路」での散策も楽しめます。

高松塚周辺地区

古代飛鳥人の姿が蘇る、極彩色の壁画を持つ高松塚古墳を抱える地区。情報案内施設「国営飛鳥歴史公園館」や「高松塚壁画館」があります。

キトラ古墳周辺地区

五感を使って楽しみながら飛鳥の歴史や文化、風土について学ぶ「体験的歴史学習」を展開します。平成 28 年 9 月に開園しました。

本公園のストック効果

● 飛鳥地域の歴史的風土の保存と普及啓発

本公園は、特別史跡石舞台古墳や特別史跡高松塚古墳などの飛鳥地域を代表する史跡や、飛鳥地域の歴史的風土が保存された地域を一望できる展望地など、我が国の重要な場所を、周辺地域と一体的に開発から守り、永く後世の人々に伝えていく役目を果たしています。また、飛鳥に生息・生育する希少種の保護・育成や里山の維持管理、公園の周囲の景観と調和した公園づくりを行い、歴史的風土の保存に貢献しています。

歴史的風土の保存だけでなく、地域と連携し、公園のイベントに合わせた蹴鞠などの披露や、綱掛神事などの観覧をコースに含めた公園の内外をつなぐウォーキングツアーを実施するなどして、より多くの来園者に、伝承芸能や美しい景観に触れていただける機会を積極的に提供しています。

加えて、公園ボランティア「飛鳥里山クラブ」を組織して里山管理や公園案内を実施し、将来を担う子供達に向けて国蝶オオムラサキの飼育や放蝶体験、歴史体験プログラムを実施するなどして、様々な世代に飛鳥の歴史的風土の保存の意義や魅力を伝えています。



飛鳥地域随一の眺望を有する甘樫丘



甘樫丘で実施しているオオムラサキの放蝶会

● 飛鳥地域の観光拠点

大化の改新で有名な蘇我入鹿の祖父・蘇我馬子の墓と言われる特別史跡石舞台古墳や、国宝高松塚古墳壁画が発見されたことで有名な特別史跡高松塚古墳などは、毎年多くの方が訪れる飛鳥地域随一の観光地となっています。

一方で、飛鳥地域には現存する往時の建造物が無いことなどから、来訪者にとってその価値が分かりにくいという面があります。そこで、本公園では、バーチャル技術を使って歴史的・文化的資産を可視化する解説を行っており、大変好評を得ています。

また、本公園は、飛鳥地域でまとまったオープンスペースを提供出来る数少ない場所であり、様々なイベントを実施できる貴重な空間となっています。例年、明日香村で実施している「光の回廊」の主要会場となっているほか、新たに「古都飛鳥文化祭」や食のイベントの会場ともなり、多くの来園者を集めています。



「バーチャル飛鳥京」古代飛鳥を再現した3D映像が楽しめる



「光の回廊」園内の芝生広場を大きく使った「光の地上絵」や、古墳のライトアップなどが行われる

● 飛鳥地域の周遊促進

本公園では、飛鳥地域を訪れる人の玄関口として、高松塚周辺地区に国営飛鳥歴史公園館を設置し、ジオラマやパネル、映像などで飛鳥地域の見所を紹介しています。公園内はもとより、公園の外にあるたくさんのおすすめを紹介し、訪れる方を公園の他の地区や飛鳥地域全体への周遊に誘っています。

また、明日香村など飛鳥地域の地方公共団体と連携した統一的なサイン整備を図り、飛鳥を訪れる人が迷わず楽しめるように支援しています。そして、飛鳥地域を周遊する方々には、途中で休息できる場所が不可欠であることから、本公園が快適な芝生広場や、四阿、木陰、清潔なトイレなどを提供して余暇活動を支援し、飛鳥地域の観光利用を促進しています。



飛鳥観光の玄関口として地域の観光情報の発信を行う「国営飛鳥歴史公園館」



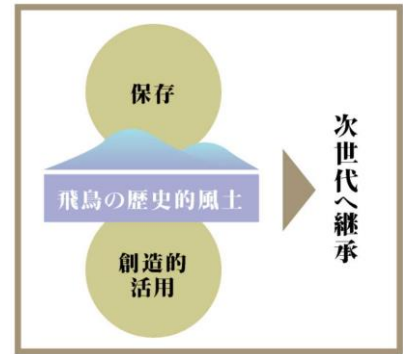
石舞台古墳に隣接する芝生広場

体験・学習・交流・協働を通じて、 歴史的風土の保存と活用を図り、 次世代に継承する公園づくりを目指します。

古都飛鳥における歴史公園としてのテーマを踏まえ、今後取り組んでいく平成 32 年までの公園の整備・管理運営においては、周辺の山並みや飛鳥川などの自然と、古墳や遺跡、棚田や集落などの人文的環境が一体となった、飛鳥の歴史的風土の保存を第一とします。

その上で、来園者の皆さまに飛鳥の歴史や文化を体験・学習できる場や機会を提供していくことにより、飛鳥の歴史的風土の創造的な活用を図ります。

また、来園者や地域の方々との交流・協働のもと歴史的風土を後世に継承していくための公園づくりを推進します。



保存と活用による歴史的風土の継承イメージ

「歴史的風土」とは

わが国の歴史上意義を有する建造物、遺跡等が周囲の自然的環境と一体をなして、古都における伝統と文化を具現及び形成している土地の状況をいいます。

● 整備・管理運営プログラム策定の視点～保存と活用の方向性

歴史的風土 の保存

祝戸・石舞台・甘樫丘・高松塚周辺・キトラ古墳周辺の 5 地区について、各地区の地形、植生、立地および隣接する史跡等の歴史的資産を考慮しながら、周辺の歴史的風土との調和を目指した景観づくりを引き続き行います。



公園と周辺の田園風景（日本の棚田百選・稲淵の棚田）が一体となった景観（祝戸地区）

歴史的風土 の創造的 活用

キトラ古墳周辺地区については、キトラ古墳や檜隈寺跡を題材とした体験的歴史学習の場を提供するとともに、歴史的風土の保存への理解と多様な主体の交流・協働の場となる拠点施設として活用を図ります。

その他の 4 地区については、「飛鳥らしい」景観を広く国民共有の資産として活用するとともに、各地区における展望・散策・史跡鑑賞などの機能を高めるための施設の更新のあり方を、来園者の皆さまのニーズ等を踏まえながら検討します。



史跡檜隈寺跡（奥の樹林）と園内の段々畑（キトラ古墳周辺地区）

● 公園施設の老朽化対策と合わせた機能向上を実施します

公園開園から 40 年以上が経過し、公園施設の老朽化が進んでいることから、来園者に安全・快適に公園を利用して頂くための施設の更新を計画的に行うとともに、橋梁の機能向上や飛鳥地域の周遊を促進するサインの設置、トイレの改修等、更新と合わせて施設の安全性や利便性の向上を図ります。

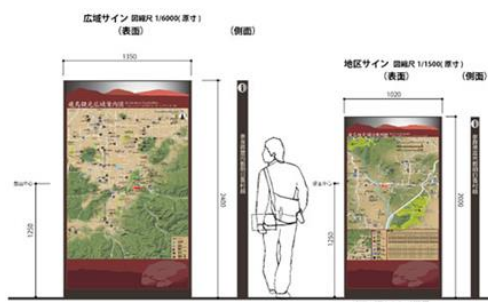


(改修前)



(改修後)

歩行者の安全性向上のための橋梁高欄の改修（イメージ）



より分かりやすいサインの整備イメージ



洋式トイレ整備

● 公園をとりまく状況の変化に対応した機能向上等

キトラ古墳周辺地区開園後の利用動向、文化庁による高松塚古墳壁画修理の進捗や保存管理・公開施設の検討状況、石舞台地区における県道桜井明日香吉野線の整備等、公園をとりまく状況の変化に対応して、公園の機能向上や施設の再配置を検討します。

● 飛鳥の歴史的風土を適切に維持します

飛鳥の主要な史跡と一体的に整備された公園として、適切な維持管理により、それらの史跡や周囲の景観とも調和した公園づくりを進めるとともに、飛鳥に生息・生育する希少種等の保護・育成など、自然環境の保全にも努めます。

また、文化庁や飛鳥地域の地方公共団体、飛鳥地域で活動する諸団体との連携のもと、飛鳥地方の歴史的風土や文化財の価値を伝え、保存・活用に関する普及・啓発に取り組みます。



史跡と周辺環境の調和に配慮した高松塚古墳周辺地区（星宿広場）



公園ボランティア「飛鳥里山クラブ」によるオオムラサキの飼育（左）やササユリの育成（右）



文化庁と国営公園等が協力して実施されるキトラ古墳壁画体験館四神の館でのキトラ古墳壁画の公開

● 安心して来園者が利用できるよう施設の修繕等を計画的に行います

施設の老朽化による公園の機能低下を予防し、来園者が公園を安心して快適に利用できるよう、園路や広場、トイレ等の建築物等、公園内の施設の修繕等を計画的に実施します。



園路の修繕



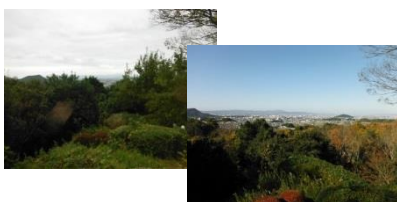
転落防止柵の修繕



トイレ棟の明るさの改善

● 公園本来の眺望や里山の風景を回復するためみどりのリフレッシュに取り組みます

古都飛鳥の史跡などと調和して歴史的風土をつくりだす里山林や、園内の各所を彩る修景木などのみどりが公園の大きな特色となっていますが、開園から40年以上が経過し、樹木が大径木化、老木化することで、公園内の眺望や見通しを遮ったり、十分な生育空間が得られないことで不健全な樹木が増加する等の課題が生じてきています。また、近年はなら枯れの被害も発生しています。このため、甘樫丘を中心に、来園者の方々に本来の飛鳥の眺望や里山の景観を楽しんで頂けるよう、樹木の除伐や更新等を行います。また、飛鳥の風景とも調和した公園を彩る花修景を進めます。



展望台における眺望の確保
（左：改善前の展望台、右：改善されて大和三山が見えるようになった展望台）



適切に管理された里山の風景



飛鳥の風景と調和した花修景

● 地域の観光拠点として、一層の利用促進に取り組みます

キトラ古墳壁画体験館四神の館、石舞台古墳、高松塚古墳や飛鳥随一の眺望点である甘樫丘など飛鳥地域の観光拠点を有する公園として、これらの利用促進を図るだけでなく、文化庁や飛鳥地域の地方公共団体等と連携し、来園者の飛鳥地域全体へのさらなる周遊を誘導します。また、地域と連携したイベントの開催や、多言語音声ガイドペンの貸し出しなど、多種多様な利用ニーズに対応します。



四神の館展示室



公園イベントでの地域の文化団体による飛鳥蹴鞠の披露



関係機関と連携して制作したポスター。公園の開園と合わせて地域の魅力を再度PR。

● 飛鳥ならではの「体験」を提供します

勾玉づくりや土器づくり、農体験など、飛鳥の歴史や文化、自然などを題材とし、これらを楽しみながら学んで頂ける飛鳥ならではの体験プログラムを実施します。特に、平成28年9月に開園したキトラ古墳周辺地区では、休日毎に体験プログラムを実施し、学習やレクリエーションとして飛鳥地域での「体験」を求める方々のニーズに応えます。



勾玉づくり体験



古代ガラス製作体験



農体験

● 参加型の公園づくりを推進します

地域の方々や飛鳥ファンに大切にされる公園を目指し、ボランティア活動の参加機会や活動内容の充実、地域と連携したイベントプログラムの実施などを図ります。



公園ボランティア「飛鳥里山クラブ」による間伐材を活用した炭づくり（甘樫丘地区）



土器づくり



地域と連携したイベントの実施

公園事業の効果

平成32年までの間に上記の施策を実施することにより、次のような事業効果が見込まれ、ストック効果をより一層高めます。

- 飛鳥を代表する史跡などを公園が有することで、それらの場所を周辺地域と一体的に開発から守り、また飛鳥に生息する希少種・在来種の保護・育成や、里山景観の再生・創出を行うことなどにより、飛鳥地域の歴史的風土の保存や普及啓発が推進されます。
- 開園したキトラ古墳周辺地区などにおける体験的歴史学習の充実により、地域の新たな観光拠点となるとともに、地域と連携した様々なイベントなど、飛鳥の歴史や文化を楽しむことができる飛鳥ならではの体験を提供することにより飛鳥地域の魅力を向上し、観光振興に寄与します。
- 公園区域の周囲に広がる飛鳥地域の豊かな資源の情報発信や、安全・快適で過ごしやすい空間の提供を行うことにより、地域の周遊観光が促進されます。